

平成30年度第3学年全国学力・学習状況調査および練馬区学力調査の結果と分析

平均 正答率	全国学力・学習状況調査結果					練馬区学力調査結果	
	国語A 主として知識	国語B 主として活用	数学A 主として知識	数学B 主として活用	理科	社会	英語
本校	78	62	66	49	65	52.5	62.8
都・区平均	都77%	都63%	都67%	都49%	都65%	区53.4%	区67.0%
全国平均	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	56.7	58.9

教科	学力調査の分析（身に付いている力・課題等）	具体的な授業改善策・取組
国語	<p>国語A・Bとも全国平均を上回っている。書くことの領域は多少優れているが、読むことの領域がすこし劣っている傾向にある。</p> <p>言語については、漢字を読むことはできるが、書くことができない。また、接続詞の動きは理解しているが、語句の辞書的な意味を踏まえて、文脈上の意味を捉えられない傾向にある。</p> <p>読むこと、漢字の書き等に課題がある。</p>	<p>文章を読み、内容を的確に捉える力を身につけるために、目的や意図に応じて、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見等を読み分けて内容を把握するよう指導する。また、構成や展開、表現の仕方についても指導する。</p> <p>言語に関しては、定期的な漢字の読み書きのテストなどを行う等して定着するよう指導する。また、語句が話や文章の中でどのように使用されているか指導する。</p>
社会	<p>全体として区平均より1%近く下回っている。領域では、日本の諸地域分野は区平均を上回っているものの他の分野は若干下回っている。</p> <p>特に基礎的な問題よりも活用問題に一層の傾向が出ている。観点別においても社会的事象についての知識・理解が区平均値を維持しているだけに、思考・判断・表現、技能など活用力に課題を残した。</p>	<p>今後の公民分野においては、知識・理解をもとに資料を活用し、思考し、判断していく場を積極的に用意していく。グループでの学び合いを活かした発表などの表現力にもつなげていける指導をする。</p> <p>特に3学年ということもあり、地理・歴史のまとめも織り込んで授業を計画していく。</p>
数学	<p>数学A・Bともに全国平均を上回っている。領域別にみると、「資料の活用」の正答率が全国・都の平均をとともに大きく下回っている。</p> <p>数学Aにおいては「関数」が、数学Bにおいては「数と式」の領域が全国・都の平均を上回っていて、これらの領域の理解度は、高いと考えることができる。</p> <p>記述問題の正答率も全国・都の平均と差は見られず、標準的な理解度だと考えられる。</p>	<p>進路選択期にあたり、「資料の活用」の領域の復習をするべきであると考えられる。3年生になってから、基礎・基本をより一層徹底していることから、「関数」「図形」の領域を思考するための素地を備えることができていると考えられる。</p> <p>記述問題の正答率向上に向けた対応として、授業内で自分の思考を言語化させる活動やグループワークによる学び合いなどを多く取り入れている。</p>
理科	<p>結果から、都・区平均値と同等の値が出ている反面、全国平均と比べると、約1%下回っている。</p> <p>区分別でみていくと、生物的領域が全国平均より2.6%、自然事象への関心・意欲・態度が1.8%上回っている。それに対して、化学的領域が全国平均2.8%、物理的領域が1.7%、観察・実験の技能が3.3%全国平均よりも下回っていた。科学に対する興味関心はあるが、技能や知識理解の正答率が低い。</p>	<p>基本的な濃度の計算や、オームの法則を使った計算の定着を図るために基本的な考え方を定着させ、様々な問題に触れさせることによって、問題解決の技能の能力の底上げを図る。また、授業前に1問1答の小テストを計画的に行うことによって、知識理解の定着を図りたい。</p>
英語	<p>結果から、全国平均正答率と、区が設定した教科の目標値の平均を上回っているが、区平均正答率を下回っている。問題の内容別正答率では、リスニング（内容理解）や様々な英文の読み取りで、区平均正答率を上回っているが、語形語法の知識理解や語彙の知識理解では下回っている。</p>	<p>前年度校内観点別正答率と比較して、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力は、問題の難易度が上がったにも関わらず、大きく上回っている。年度の後半は、語彙や語法の習得により力を入れ、知識理解の定着を図っていく。</p>